令和５年度

文学部第３年次編入学者選抜学力試験問題

# 現　代　国　語

注　　意

1．解答は，別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。

2．総ページ数 ―― １３ページ
問題ページ ―― 第２～第６ページ，第８～第１３ページ
（第１ページ，第７ページは白紙）

3．試験終了後，この冊子は持ち帰ること。

I　つぎの文章について後の問に答えよ。

問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。



問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。



問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。

（柿沼裕朋「言葉としての版画」による）

（注）

○モノタイプ ―― 版に直接描画し、プレスすることで紙に転写する版画技法。

○板目木版画 ―― 木を繊維と同方向に縦に切り出した板（板目）を版に使用した版画。

○木口木版画 ―― 木を横に切り出した板（木口）を版に使用した版画。

○オイゲン・フィンク ―― 一九〇五〜一九七五。ドイツの哲学者。

○ベンヤミン ―― ヴァルター・ベンヤミン（一八九二〜一九四〇）。ドイツの思想家。

○ヴァレリー ―― ポール・ヴァレリー（一八七一〜一九四五）。フランスの詩人、作家。

○フーコー ―― ミシェル・フーコー（一九二六〜一九八四）。フランスの哲学者。

問一　傍線部A～Fのカタカナを漢字に改めよ。

問二　傍線部1「その様相はかなり異なる」とあるが、どのように異なっているのか、説明せよ。

問三　傍線部2「版画には作品という実像の裏に、常に虚像として版という物質がある。しかし、版画家は版という実像に向かって作品という虚像を作っている」とはどういうことか、説明せよ。

問四　傍線部3「この版画家を含む虚実の構造」とはどういうことか、説明せよ。

問五　傍線部4「言葉もまた、人と同じく骨格の基礎が虚である」とはどういうことか、くわしく説明せよ。

問六　傍線部5「版画が言葉と共に、人間の実存的な問題を扱うのに適した表現媒体である」とあるが、なぜそのように言えると筆者は考えているか、説明せよ。



（このページは白紙です。）

Ⅱ　つぎの文章は、奈良時代、東大寺の大仏を建立する造仏所で働く人々に、日々の食事を提供する炊屋を主な舞台にした小説の一節である。鮠人・真楯は造仏所で働く仕丁、猪養はその仕丁頭、宮麻呂は炊屋で調理をとりしきる炊男である。これを読んで後の問に答えよ。

問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。



問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。



問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。

（澤田瞳子『与楽の飯　東大寺造仏所炊屋私記』による）

（注）○経師――写経所で経典を書写する人。　○案主――写経所の事務を統括する人。　○三綱――寺務をつかさどる僧。
○校生――写経の文字の誤りをただす人。　○根道――下級役人の一人。　○優婆塞優婆夷――在家の仏教信者。
○甘葛―ツタの樹液から精製した甘味料。　○十七年前――逃亡役夫であった宮麻呂は、菅原寺の行基のもとでかくまわれていたが、見つけられそうになって役人を殺し、やがて出奔した。



**問一**　二重傍線部ａ～ｈの漢字の読みを平仮名で記せ。

**問二**　傍線部①「鳩首」、②「風花」の意味を記せ。

**問三**　傍線部１について、真楯が「なんとも言い難い不快な気分」を覚えたのはなぜか、詳しく説明せよ。

**問四**　傍線部２について、「栄慶の苦衷」とはどのようなことか、「行基の現状」を明らかにして、具体的に説明せよ。

**問五**　傍線部３「その瞬間真楯は唐突に、目の前の男はかつて、仏を信じ、それにすがろうとしたことがあるのだと気付いた」とあるが、宮麻呂のどのような態度から気付いたのか、説明せよ。

**問六**　傍線部４「行基さまも同じ」とあるが、何がどういう点で行基も同じと言えるのか、説明せよ。

**問七**　傍線部５について、「もしかしたら一字一仏の経典を書く腕を鼻にかけ、この炊屋のような心のよりどころを持たぬ彼らは、その行ないとは裏腹に、仏からひどく遠い所にいる者たちなのかもしれない」とはどのようなことか、わかりやすく説明せよ。